

# 実践！ コンサルティング 営業 第40回

独立系FP・生保代理店 ● 辻 良子

## 団塊「後」世代の ラストプランニング

保障も運用も、1日でも早く見直せば、  
その分、第二の人生の可能性が開けてくる

「団塊世代」の大量退職が始まった。彼らの退職金を見込んで、各業界こぞってさまざまなプランを提案しており、情報があふれている。定年は人生の節目だが、家計の変化は実はもう少し前から始まっているとも言える。50代も半ばになれば、おおむね子どもたちは成人しており、教育費の支出がなくなる頃だからだ。それだけに、「老後のプランニング」への着手はできるだけ早い方が望ましい。

### 顧客プロフィール

夫 島本 広 55歳  
手取り年収 約570万円  
専門商社の経理部長。大学卒業後、金融機関に就職し、全国各地の支店に勤務後、44歳のときに出向を命ぜられる。45歳のとき、会社がリストラ策の一環として募った早期退職制度に応募し、出向先の企業に経理課長として転籍した。

妻 島本康代 52歳  
高校卒業後は、いわゆる花嫁修業をし、その後、広と結婚した。転勤の多い夫とともに、全国を転々としていたため、一度も就職した経験がない。

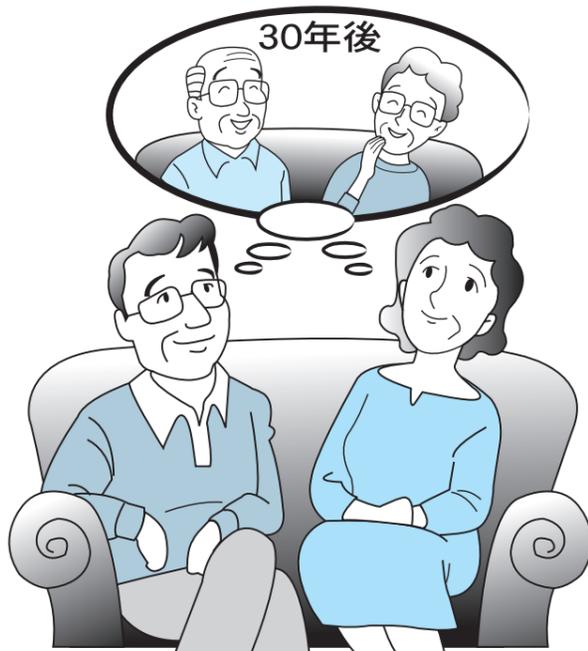
子 島本裕紀 25歳  
子 島本百合 23歳  
いずれも大学卒業後、就職している。

資産  
普通預金・定期預金 1,400万円  
※妻の遺産相続分（現金で1,000万円）も含む

住宅  
●一戸建て住宅（持ち家）  
退職を機に再就職先近くに中古住宅を購入。リフォーム費用も含め、全額退職金で賄った。

保険  
●定期保険 1,400万円  
●介護・生活保障保険 年240万円×15年  
●医療特約 5,000円（4日免責、120日型）  
合計保険料 約39,000円/月 65歳まで

●特定疾病終身保険 1,000万円（終身保険を転換）  
保険料 約450,000円/年 60歳まで



### 今月のFP

時田朝美◎35歳

生命保険会社に総合職として10年勤務した後、結婚退職。現在は「人手が足りない」と頼まれて、親戚の保険代理店に勤務。当初はパート感覚の軽い気持ちで勤務していたが、最近では真剣に顧客と向き合い丁寧なコンサルティングを心がけている。



### 団塊「後」にバラ色の将来はない!?

休日の午後の自宅。島本夫妻は久々、夫婦水入らずでくつろいでいた。昨年、妻の実母が亡くなり、ようやく法事や相続の手続きなどが一段落したのだ。

「いろいろとお疲れさまでしたね」

島本広は妻にねぎらいの言葉をかけた。妻の康代はしみりとなりながら夫にお茶を差し出した。

「本当に…長いようで短かったわね。お母さんのことは残念だったけれど、協力してくれて感謝しています」

夫の協力も得られたことで、康代は毎日のように母の入院先に通い、献身的に介護ができたのだ。

「そろそろもらった遺産の運用先も考えなくちゃ…。老後のこともあるしね」

「うちの場合、貯蓄も退職金も少ないし…。それに引き換え、団塊の世代はいいよなあ。なんだか世間からチヤホヤされているような気がするな」

夫婦の会話は、自然と自分たちの老後についての不安、団塊世代との格差、という方向に進んでいった。団塊世代の大量退職が始まるのに合わせ、巷には退職後のライフプランについての情報が大量にあふれている。

「こんなに情報があふれているのは今だけだぞ。われわれの世代が定年になった頃は、何でも自分で考えて準備しないといけないんだろうな」

新聞を手に島本はぼやいた。10

年前、勤務していた金融機関を早期退職した経験があるのだ。リストラの嵐が吹き荒れていた頃だ。幸いなことに出向先の会社に経理課長（現在は部長）として転籍できたため、以前より年収は大幅に下がったものの、職探しに苦労することはなかったし、退職金も割増支給された。

そのおかげで現在の住まいも子どもたちの教育資金も賄うことができた。一番お金の必要ときにまとまった金額を先取りできたのだから、苦悩はあったが、今ではその選択は正しかったと考えている。

ただ、そうは言っても将来への漠然とした不安が消えることはない。「団塊マネー」などという言葉がもてはやされ

### 質問表

- 家族構成  
夫:55歳(昭和27年5月生)  
妻:52歳(昭和30年1月生)  
長男25歳、長女23歳。長男は1人暮らし、長女は同居、いずれも会社員
- 年収および家計支出の内訳  
手取り約570万円(月39万円、年間賞与102万円)  
支出約415万円(固定費月28万円×12カ月+その他79万円)  
貯蓄額140万円(定期預金 月10万円、賞与より各10万円、余った分は普通預金へ)
- 今後の収入状況(昇給や職位定年等の予定が分かれば記入)  
おそらく60歳までほぼ据置。その後も65歳まで勤務するが、月収24万円程度を予想
- 年金加入内容および時期、結婚時期(夫婦の公的年金試算のため)  
夫:昭和50年4月より厚生年金、平成8年9月転職、転職前の税込年収900万円  
妻:昭和56年3月結婚、以後は夫の扶養、現在第3号被保険者(それ以前は国民年金未加入)
- 健康保険の種類  
政府管掌健康保険
- 住宅の状況およびローンの有無  
一戸建て持ち家、ローンなし。購入時価格は2,900万円
- 就業予定、退職予定と予想退職金等について  
現状では60歳定年。65歳まで嘱託として勤務可能。ただし年収は360万円程度(税込み)  
60歳時の退職金は、300万円程度の予想
- 資産残高とその内訳  
定期預金300万円(毎月と賞与からの積立は長女が大学卒業した昨年からの実施)  
普通預金1,000万円(妻の遺産相続分。運用したいが、とりあえずそのままになっている)  
普通預金100万円(収支の黒字分)
- 家のリフォームや自動車等の購入、レジャー等の予定  
自動車は、休日しか乗らないので、5~6年おきくらいに小型の中古車を購入。現在所有の自動車は、昨年購入したばかりなので、次は退職金で購入予定だが、できれば新車がほしい  
当面、リフォーム・レジャーの予定なし
- 住宅ローン以外のローンや借金、カードの返済の有無  
なし
- 生損保の加入状況(保険証券の提供が望ましい)  
顧客プロフィール(12ページ)参照
- 親世代への介護などの必要等  
夫・両親共90歳前後で健在。実家は遠方だが、姉と妹が近くに居住しているため、面倒を見てもらっている。その代わり、遺産(土地家屋とわずかな貯蓄しかない)の相続は放棄する旨、話し合いはしている  
妻:両親共他界。母の死後、遺産相続として1,000万円受け取った
- 将来どのように暮らしたいか、希望や夢、不安な点、特記事項等  
定年後は、年に1回は夫婦で旅行したい(予算は20万円まで)  
老後の生活レベルは、現状維持できれば理想だが、収入が減るので、どうなるか不安  
相続した資金を、老後のために少しでも有利に運用したい  
基本的には豊かな老後を過ごしたい
- 今回の相談で、特に重点をおきたいこと  
資産運用について。相続した1,000万円の運用先をどうするか  
生命保険について。今の契約を続けるべきか迷っている  
老後生活について。年金だけで暮らすのは不安なので、家計をどう削ったら良いか